

190年生の松元玉(左)と2番玉(右)。2本で400万円を超えた

松は地元産190年生の銘木級をはじめ大径木や目細な良材が出そろい、それらを目当てに関西や中部からの買い手が参集した。杉は100年を超す大径材はあったが、芯の色

722万円ではほぼ昨年10月の記念市並み。昨年よりの杉が多い分、総材積もも多く、平均単価は約1万8000円と2割安かった。記念市恒例の1本単価を当てるHOWマツチクイズは190年生の松を対象に行われ、松の6材×74材の元木から同62材、同48材、4材34材、同13材の5番玉までの合計が約472万円と近年にない高値を付けた。

える単価も多数見られた。一方、杉は50材を超える太い材は多かったものの、5材×60材の14万円を最高値に4材材は5万5千10万円と伸び悩んだ。並材は松3材柱取りが1万6000円、7000円。4材中目は1万7000円、8000円と横ばい。杉は3材柱取りが1万1000円、3000円。4材中目直材は1都、小川明範社長)は

今まで以上にきめ細かいサービスを熊谷営業所新築を披露

ジャパン建材



部の熊谷営業所(埼玉)新事務所等の建物が完成したため、今回のお披露目となった。新事務所は木造軸組工法の平屋(建築面積40坪)で、梁部分は国産カラ松LVL(キートック製)の現地で施工されている。判断した。今まで以上に顧客にきめ細かいサービスを届けられる。仕入れ先の絶大なる支援を受けながら、ともにこの地で顧客と発展したい」と述べた。来賓祝辞では、販売先であるオカモト建商の岡本庄一郎会長が「私は根っからの熊谷っ子。熊谷で長く営業させていたでいるので、この土地柄のこととは分かるつもりだ。

地域ビルダー戦略

> 505 <

造り、これにパッシブ設計を取り込んでいく。例えば、夏に他の住宅に入る風の流れを考慮し、窓向きから配置、部屋の間取りなど

船津地産(埼玉)

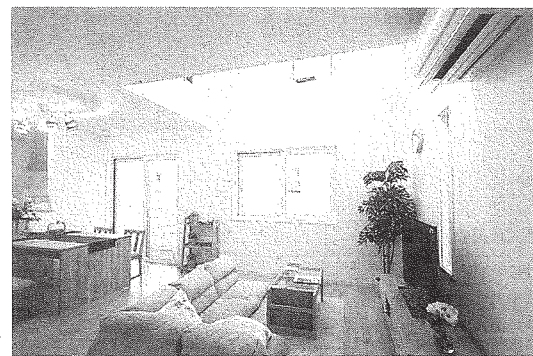
住宅の設計が多い。これに対し当社計を担う清水雅彦氏は「現在、住宅性能を考慮し、健康を維持するために十分な性能を確保している。また高性能な住宅であ

採光も考えられ無駄なく明るい部屋をデザインする

1・イン・エナジー2014」で優秀賞を受賞した。加えて同社では、住宅のコンセプトを知ってもらえるよう、住まいづくりサポート館に生活体験型モデルハウスを建設中。そのなかで同社住宅のモデルハウス

地域に密着した企業

真の健康省エネ住宅を可能に



同社の省エネ住宅シリーズは、省エネシヨンの場を提供し、地域に密着した事業展開を進めていく。

船津地産(埼玉県川口市、船津淳吉社長)は、土地や建物の売買などの不動産事業とともに、新築分譲や注文住宅を手掛ける住宅事業も行っている。同事業では、ただ物件を提供するのではなく、地域に密着し、その地域に適した家づくりや高性能住宅を建設。地域の支持を高めることで多くの信頼を得ている。

この住宅では、エアコン一つで、家全体を冬は暖かく、夏は涼しくできる健康・省エネ住宅を実現している。同社の住宅造りは、保温性の高いしっかりとした器となる構造を

及しているりながら、住宅購入のゼロエネ住宅ボリュームゾーンに適した金額で住宅を提供は、家の隙している」と語る。高性能住宅を知って間にも、同社は生

密性能の不足で性能の活体験モデルハウスを建設。提供する



清水水氏

同社の住宅造りは、同社の高性能住宅シリーズ「eco家」は、工法を基に、サンエイ熱交換システムと、窓コー東日本のSANPAに樹脂LOWEペアネルなどの高断熱パネルガラスサッシを標準採用すること、用し、熱損失係数(Q値)約1.3を可能にした独自工法。また、した高性能住宅だ。

低住宅もeco家を建設。提供する